

Date: 2019 / 9 / 7

Name: 初田 美紀子

<1部>

プロセスは協働的(=人称的)な。描写の
選取肢は「いろいろある」という冒頭の説明はとて
考へておられました。

同じ事象/経験を調査地子人が(人称といふ)語
表現する作品と、二人称的に創作する作品の2種類の
対比に観賞できる面白いと思います。
是本的には「A-Z」が「T」に括弧を付せんか”...

<2部>

仮設という場=回復のための場というお話は
非常に新鮮で、個人的には新しいと知^{子=とわて}~~る~~。
楽いからTです。“退去時に決まる”のが、良い仮設か否か
決まるという説明は、変化がお王子ホリエットの、自分自身の
解釈が試みられる視点は、とても納得できました。
ありがとうございます。

HOME
in Tokyo

うらにも ひとこと。

Date: 19 / 9 / 7

Name: ニジマアキニ

① "うらにも" の映像

静止画のほうが多いから、テレビにもみ出し
"情報量" ほかにはないと思う。でも、質問の
まぶさがある。まあ、上手なことではあるけど。
"情報" の量だけでなく、抑え方のバランスが
大事なのかも。と。

② ~~Life A Day~~ Life in a Day

超 雑多なもののな。時間 (24) という
軸でいく。1つの"瞬間" を撮るのって
すごい! 編集の妙!!

③ 住み直し

手を入れたくないみたいと思ってる。→ 2. すごい
日本的? 住み直し "自己" 対するものか
まぶさがある? 被写体は

HOME
in Tokyo

もちろんおもしろいけど、4時間の素材にもなる。

Date: 2019 / 9 / 7

Name: 本谷季晴

自分の生活、環境が変化してゆく中で
何らかの安定？を身に覚えさせるために
どうすればいいかを考えてみると意外と
ルーティンが大切になるモノだとありそうな気がして、
面白かったです。
本がティグにしか不足えられていたのが変化も
他の人の軽馬笑や感じ方と照らし合わせることで
違った考え方ができるようになるのだなと思いました。

映像の手法も様々にあるということがわかって
面白かったです。どうすれば伝わるのか??を
しっかり考えた上で作品をつくるのが大事だと
改めて感じました。

Date: 2019 / 9 / 7

Name: 田中 翔貴

朝の字位としては、岩佐さんの取組みのための
"カスタムズグラフィック"です。通常自分のあたりまえだと思
っていることや、行っている作業で自分からは見せようとしてた
り、教えることはないものを、第三者が情報開示することは、
皆が空回り、僕もやたらに驚かされてきた事には驚きでした。

他人が介入することの意味として、自分にまたの行動を
改めて知らざるに気づかせる事だと気付きました。

Home とは 建築的につくり出す空間ではなく、

愛着のあるものによってつくり出す空間なんだと理解できました。

Date: 2019 / 9 / 7

Name: 鄭禹晨

ディスプレイの中、自分も振り返ってみた。

2016年に来日、賃貸住宅を借りて、その時二年留学が終わったら、日本に残るか、まだ未定なので、ベッドも買ってない、最低限だけの家電を買った。しかも家電の箱、パーツ、取扱を全部残っている。(帰国の場合、全部売るつもり)

半年前、ベッドを買った、最近掃除の時に家電の箱、取扱など全部捨てた。

今は自分の東京の home を認めたかなと思った。

HOME
in Tokyo

Date: 2019 / 9 / 7

Name: アサヒ

Home は 好き。

人々(お家の大好き物)との
関係性の中にあると思う。

逆に“モノ”を手に取り
とることもおもしろい。

とることもおもしろい。

アサヒ

Date: 2019 1 9 1 7

Name: 神野真実

授業前半の映像作品の鑑賞も、
後半の 岩佐先生のレクチャーも。
同じもの見聞をした時の皆の視点や反応が
多様で面白いと感じる。

先生のレクチャーのおかげで改めて
ホムをホムするしめるとは何なのかという
テキストのシヨレットの中で、いろいろな気づき、
儀式や暮らし方の話が出、自分の
今のホムを再発見できて良かった。

Date: 2019 / 9 / 7

Name: 松尾 葉奈

日常のルーティーンが 'home' に
なるというのは興味深い点でした。
チェックインで「ヨイスさんが」おっしゃって
いた家への帰り道も、自分では
当たり前だと思っていることが
実は 'home' を構成している大事な
パートなんだなと思いました。
留学は、元の場所へ戻れるけれど、
家族ごと引っ越したり、災害で家ごと
失うということは、全く元の場所には
戻れないことだと思おうと、切ないし、
そのような状況でひとりのように
'home' 感を出るのが気になりました。

HOME
in Tokyo